

を無上の楽しみとして居る、所謂、其の日暮しの商賣的教育者。

次ぎは人氣取りに、きうくとして、やれ藝術教育だ、やれドルトン・プランだ。やれ自學自習と流行を追ふのみで、仕事に根柢もなく、只上調子に走る、俗受けのよい、所謂、模倣的教育者。これ何れも排すべきものである。ことに、今日この評判取りの教育者が持てる事夥し。併し、眞の教育者は、上調子ではない。眞に人を作らんとする愛より出で、熱の結晶による。パツとはしない。甚だ地味である。

○ されど、此の教育者こそ、尊きものである。

○ 「らしくせよ」とは、千古の名言である。教育者にはことに大切である。

「らしくせざれば」人のそしりを受け、人に悪感を抱かしめ、甚しきに至りては、圓滿の維持どころか大破裂も來すものなり。謹しむべきことかな。

教育者は、其の本務の爲めには、身命を賭して働くべし。本務外の目的のために活動するは、見苦しく見ゆるものなり。又、よく見透かさるゝものなり。

○ 平和を得んとせば、我意をしるべし。我意の強きは不平を生ず。これ、人情の弱點、おそるべきことなり。

○ 世の中には、權道なるものあり。菅原劇の松王丸首實驗式なる事あり。思ふべき事かな。

○ 御馳走は甘きものなり。御馳走は腹のいたきものなり。御馳走は喜ばしきものなり。御馳走は恐るべきものなり。御馳走は働けるものなり。御馳走はばかしくしきものなり。これ御馳走の多面觀。

○ 先きを見よ 先きを見るなよ 心せよ

見すごすときは 見えぬものなり

すりこぎも 廻す度合が 肝心よ

廻りそらせば 味噌も つくなり

○ 自信と云ふことは、非常に大切なことである。是非ともなくてはならぬが、自信も常識に富んでからの自信でないと、調子のはづれる。教育者たるものは、常識を養ふて、自信を作れ。

○ 職務あるものは、職務に對して忠實ならざるべからず。決して、私情をさしはさむべからず。何の効果なきものなりとも、亦、馬鹿げた事なりとも、職務の上は忍びてなすべし。職責は實に重んずべきものなり。

○ 人は些少なる務めの出来ぬ點によりて、心も見透かされ、品位も落し、信用も失ふものである。心すべき事なり。

○ 生存競争は、何れの社會にもあるものなり。今や育英社會にも、其の甚しきを見る。眞面目にして實力あるものは常に勝利者たり。勉むべし、勵むべし、自ら敗者となるなかれ。

困つた教員なりとて、或人の話に、

- 1、書き方時間に教案作り。
- 2、點鐘聞いて、モー一服と尻を据へ。
- 3、靴音聞いて、眞面目くさつて机間の巡視。
- 4、缺席遅刻は何とも思はず。
- 5、體裁作つて親切皆無。

○ 「人の口には戸はたてられぬ」

「切れ過ぎると危険である」

「努力に對する効果」

「無頓着に對する不結果」

○ 私には、常に其の感が大である。

二十有餘年の私の教員生活、回顧すれば昨日の夢の如し。洛陽城東桃李の花、飛び來り飛び去つて誰が家にか落つる。昨日の紅顏童子は、今日の半死白頭翁。將に廷芝の長詩に似たり。感想録を終らんとするに當り、私の常に愛誦せる長詩を掲げ、諸君と共に高唱せん。

洛陽城東桃李の花

飛び來り飛び去つて誰が家にか落つる

洛陽の女兒顔色を惜む

行く行く落花に逢ひて長に歎息す

今年花落ちて顔色改り

明年花開いて復誰か

已に見る松柏摧かれて薪と爲るを

更に聞く桑田變じて海と成るを

古人復洛城の東に無し

今人還對す落花の風

年年歳歳花相似たり

歳歳年年人同じからず

言を寄す全盛の紅顔子

應に憐むべし半死の白頭翁

此の翁白頭眞に憐むべし

伊昔紅顔の美少年

公子王孫芳樹の下

清歌妙舞落花の前

光祿池臺錦繡を開き

將軍の樓閣神仙を盡く

一朝病に臥して相識る無し

三春の行樂誰が邊にか在る

宛轉たる蛾眉能く幾時ぞ

須臾にして鶴鬢髮れて絲の如し

但見る古來歌舞の地

惟黄昏鳥雀の悲しむあり

—(體驗に基づく學校經營指針 終)—

跋

三 浦 藤 作

松尾幸治郎先生の著書の後、一言を述べるのは、私の頗る光榮に感ずる所である。

松尾先生は、前の愛知縣寶飯郡鹽津尋常高等小學校長である。縣の師範學校を卒業して、同校に就任せられ、最近、勇退せられるまでの二十餘年間を、終始一貫、同じ學校に勤続せられた。

鹽津村は邊僻な農村である。併し、此の村の小學校からは、非常に多くの特色ある卒業生を出した。村に留まつて農業に従事して居る者の中にも、進んで他の上級學校に入學し、他郷に活動して居る者の中にも、變はつた人物が頗る多い。さういふ點に於て、鹽津村は、近隣の町村に一頭地を抜いて居る。

鹽津村の小學校は、一時、農村の模範小學校と認められた。選奨せられたこともあつた。今日でも、尙ほ參觀人が非常に多いといふことである。模範小學校といふ名は、必ずしも學校の實質の優秀を意味するものでない。また選奨といふことも、私にはさう大した權威あるものとは思はれない。加之、時には、反感をもつこともある位である。併し、鹽津の小學校の教育精神が、甚だ堅實

な基礎の上に築かれて居たことは、私の常に認めて居た所である。現在の鹽津小學校はどうか知らないが、過去に於て、鹽津小學校が堅實な精神の上に、優秀な教育を施し、多くの人材を育成した功績は顯著である。鹽津小學校が、農村の小學校として、他に誇るべき長所をもつて居たことは明かである。

學校の成績が、校長一人の力によつて定まるものとは云はれない。けれども、學校の中心となるものは校長である。校長がしつかりした人物でなければ、學校の成績の上りやうはない。鹽津の小學校には、優れた教員が多かつた。それ等の教員が特殊の能力を十分に發揮して、學校の成績を高めたことは事實である。されど、幾多の特色ある教員をあつめ、其の才能を自由に發揮せしめ、適當にこれを統一して行く校長に、松尾先生の如き人物がなかつたならば、鹽津小學校は、決して縣下に其の名を謳はれる程の成績を擧げることを得なかつたであらう。學校の成績の進歩と共に、松尾先生の名は、次第に高くなり、縣下の有數な小學校長として、あらゆる方面に知られるやうになつた。或は選ばれて教員協會の長となり、或は優良校長として表彰せられ、或は奏任待遇に叙せられると云ふやうに、種々の榮職や名譽の地位は、先生の身邊を圍繞した。先生の如きは、農村の教

育者として、位人臣の榮を極めたものと云ふことが出来る。

松尾先生が、鹽津の小學校へ新任せられた當時、私は、高等小學の第三學年(今の第一學年)であつた。故に、松尾先生は、私の師である。松尾先生から云へば、私は、最も初期の弟子になつて居るわけである。私のやうに學校の恩惠を受ける機會の少なかつた者は、師と云へば、たゞ小學校の時の師だけしかない。而かも、其の極めて少ない小學校時代の師も、殆どみな他界せられ、僅かに遺れる人も音信不通になつて居る。たゞ松尾先生のみが、十年一日の如く、鹽津の小學校に勤務し、後進を教導して居られたのは、私にとつて何よりも大きな喜びであつた。

松尾先生は、まだ十分に活動の出来る年輩でありながら、過般、後進のために自ら勇退せられた。職を退く前に、二十餘年間の經驗に基づいた新任訓導への注意を書いて、私の許へ送られた。私は、直ちに、これを読んで見た。文筆の人ではないから、文に奇警な點もなく、思想に新奇なものもないが、圓滿な處世を以て聞えた先生の隱健な人生觀のよくあらはれた味はひのある記録であつた。皮相な思想にかぶれて新しがる者の多い今日の人々に、かうした文字の一讀をすゝめるのも、無意味なことではない様に思つた。松尾先生も、これを發表することには、異存がない様であ

つたから、数回の交渉を経て、漸くこれを私と最も関係の深い帝國教育會の出版部から發行するこ
とになつたのである。書名は、出版するに當つて、編輯の者が考へてつけたので、内容とはいささ
か一致しない點もあらう。

此の書の刊行に當つて、私はまだ外にも書き記したいことが多い。併し、餘りに駄足を添へるの
は、先生の著書に對する冒瀆と感ずるから、これを以て擱筆する。拙文によつて、本書出版の事情
を知り、著者の人物をよく理解して、本書を読まれる人々の多からうことを、私は切に望む次第で
ある。(昭和二年五月十三日夜)

昭和二年六月十日印刷
昭和二年六月十三日發行

版權
所有

體驗に學校經營指針
基づく

定價 金壹圓拾錢

著者 松尾幸治 郎
東京市外、杉並町、馬橋四八六
發行者 近藤堅三
東京市神川區四丁目一五七
印刷者 中村亮

發行所 東京市外中野町中野三六三四
帝國教育會出版部
振替東京六八二八六

(次取大) 東京堂 益文堂 北隆館
東海堂 大東館 上田屋
柳原書店 川瀬書店 菊竹金文堂

好評出版圖書目錄

三浦藤作著	精神科學派の哲學及教育學說	一圓五十錢	送料八錢
三浦藤作著	哲學概論	一圓五十錢	送料八錢
三浦藤作著	西洋哲學小史	一圓五十錢	送料八錢
三浦藤作著	倫理學研究者のため	一圓八十錢	送料八錢
原田實譯	エレン・ケイ	一圓六十錢	送料八錢
澤柳政太郎著	ペスタロッチ	二圓四十錢	送料十錢
三浦藤作著	修養話 趣味讀本	一圓八十錢	送料十錢
野口援太郎著	高等小學校の研究	二圓七十錢	送料十錢
松尾幸治郎著	體驗に基づく學校經營指針	一圓十錢	送料八錢
門田重雄著	職員新恩給法解説	二圓	送料十錢
帝國教育會編輯部著	へスタロッチ	傳八十錢	送料十錢
神戸女教員會著	學校を生活の場所としたる家	育三圓六十錢	送料十錢

發行所

東京市外野町中野三六三四
振替東京六八二八六

帝國教育會出版部



好評取次圖書目錄

三浦藤著作	修身科 解明(1)	倫理學要義	二	圓送料十錢
三浦藤著作		教育界人物管見	一圓五十錢	送料八錢
三浦藤著作		隨筆人間世間	一圓三十錢	送料八錢
三浦藤著作		渚田舍教師の手記	一圓四十錢	送料八錢
三浦藤著作	哲學を 根柢とし たる	現代教育學說大綱	三圓六十錢	送料六錢
三浦藤著作		民衆藝術夜話	一圓八十錢	送料八錢

取次所

東京市外中野町中野三六番
振替東京六八二八六

帝國教育會出版部



